

## 12月1日時点の就職活動調査

10月1日の正式内定日から2カ月が経過し、学生の内定状況はどのように変化したでしょうか。12月1日現在の日経就職ナビ・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は9割を超えたことがわかった。また今回は、中小企業へのアプローチにフォーカスし、選考試験応募状況や認知経路、応募理由などについても調査結果を紹介したい。

**1. 12月1日現在の内定状況**

- 内定率は91.6%。前回調査（10月1日調査）より4.6ポイント増
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは94.5%
- モニター全体を分母にすると、就職先決定者は86.6%

**2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定**

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」59.6%
- 文系女子は就活継続が75.6%、理系男子は大学院進学が40.5%。属性で傾向異なる

**3. 就職活動継続者の状況と企業探し**

- 選考中企業1.5社、これから受験予定1.8社。持ち駒企業は平均3.3社
- 今後の方針、「新たな企業を探しながら幅広く」48.4%
- 新たな企業を探す手段、「就職情報サイト」が74.1%で最多。  
「新卒紹介サービス」が37.9%で、10月調査（23.0%）より大幅に増加

**4. 中小企業への選考応募状況**

- 中小企業を受けた学生は60.2%。前年より2.8ポイント減少
- 知ったキッカケは、「就職情報サイト」73.2%、「合同企業説明会」37.7%の順

**5. 中小企業を受けた理由、受けなかった理由**

- 中小企業の選考を受けた理由、「早い時期に選考が始まる」が急増
- 受けなかった理由、「給与・待遇」「安定性」「福利厚生」への不安がトップ3に

## 《調査概要》

調査対象：2016年3月卒業予定の全国の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）  
 回答数：1,361人（文系男子420人、文系女子388人、理系男子368人、理系女子185人）  
 調査方法：インターネット調査法  
 調査期間：2015年12月1日～8日  
 サンプルング：日経就職ナビ2016就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505／株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。  
 日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

### 1. 12月1日現在の内定状況

12月1日現在の学生モニター全体の内定率は91.6%。前回調査(10月1日時点)では87.0%だったので、この2カ月間の伸びは4.6ポイント。当調査で12月の内定率を調査したのは初めてであり、前年同時期比較はできないが、9割強というのはいささか高い水準と言ってよいのではないだろうか。今年はスケジュールが大きく繰り下がったことで、内定率は前年同月を下回る値で推移してきたが、10月調査で前年の水準に追いつき、その後も順調に伸びていることがわかる。

内定取得学生のうち就職先を決定して活動を終了したのは94.5%。10月調査では90.4%だったので4ポイント余り上昇した。文理男女での大きな差は見られず、いずれも9割を超えている。なお、モニター全体を分母にとると、本調査時点での就職先決定者の割合は86.6%となる。

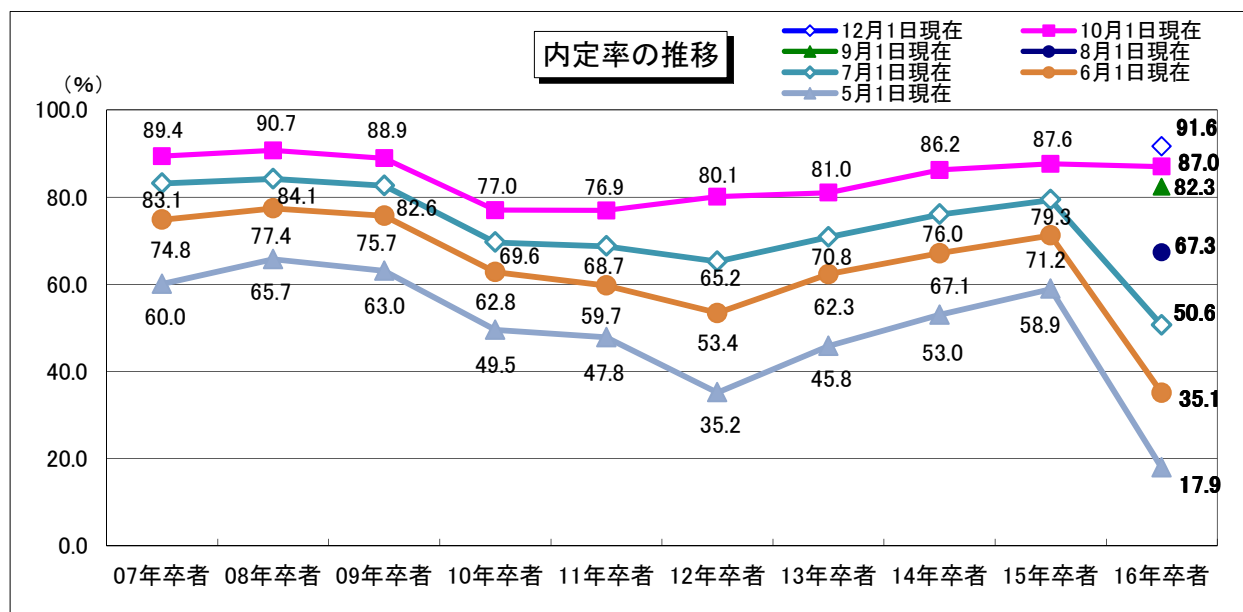
12月1日現在の内定の状況

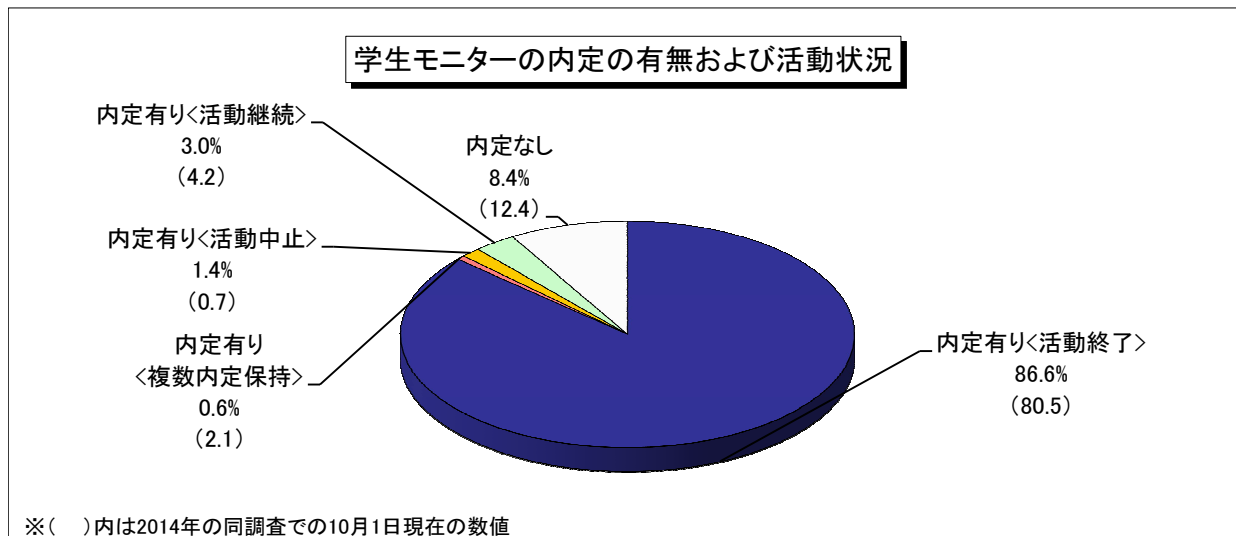
\*「内定」には、内々定を含む

		内定率 (%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		91.6 (87.6)	90.0 (84.1)	91.5 (89.0)	91.8 (87.5)	94.6 (93.3)
内定なし		8.4 (12.4)	10.0 (15.9)	8.5 (11.0)	8.2 (12.5)	5.4 (6.7)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	94.5 (91.9)	93.4 (89.4)	93.5 (91.2)	96.2 (94.2)	96.0 (94.1)
	終了したが複数内定保持	0.6 (2.4)	0.8 (2.2)	1.1 (3.3)	0.3 (2.4)	0.0 (1.3)
	進学などの理由で活動を中止	1.5 (0.8)	1.3 (0.6)	2.0 (0.7)	1.5 (1.0)	1.1 (0.7)
	就職活動継続	3.3 (4.8)	4.5 (7.7)	3.4 (4.7)	2.1 (2.4)	2.9 (3.9)

		内定社数/平均 (社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.4 (2.0)	2.6 (2.2)	2.4 (2.0)	2.2 (1.9)	2.3 (1.9)

※( )内は2014年の同調査での10月1日現在の数値

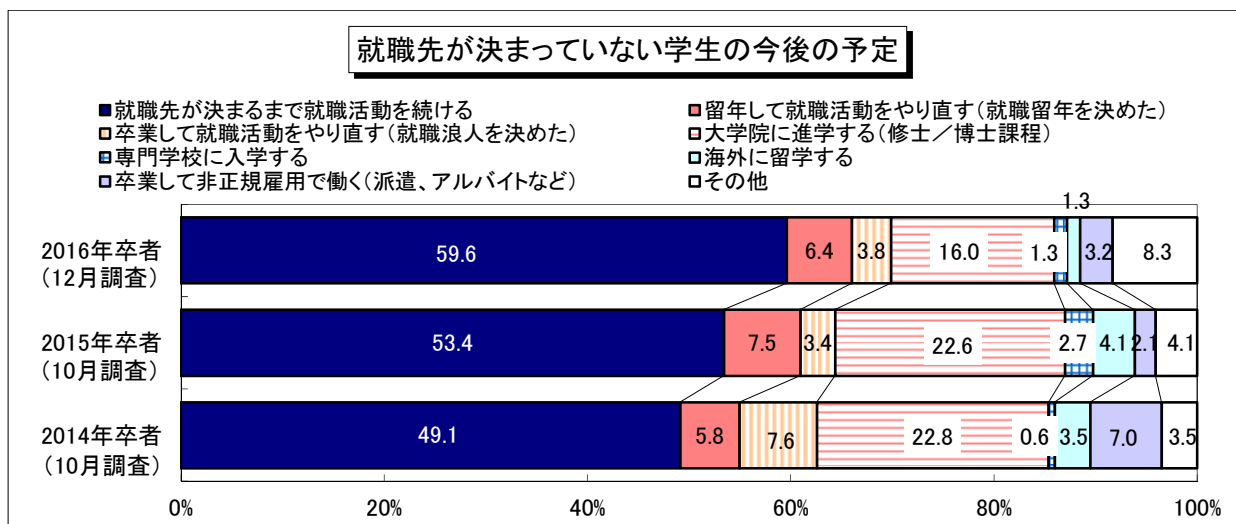




## 2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

12月1日現在で就職先が決まっていない学生（モニター全体の11.4%）に、今後の予定を尋ねた。「就職先が決まるまで就職活動を続ける」が最も多く、約6割を占める（59.6%）。前年、前々年は10月調査の数字であるが、それよりも就活継続学生の割合は高い。今年は選考解禁が例年より4カ月遅かったこと、そして企業の採用意欲が高く追加募集などで採用活動を続ける企業が多いことなどから、就職活動を続ける学生が増えているのだと思われる。

ただ、就職先未決定者の今後の進路は文理や男女で大きな差があり（下表）、文系女子は「就職先が決まるまで就職活動を続ける」が多く（75.6%）、理系男子は「大学院に進学する」が多い（40.5%）。また、「留年して就職活動をやり直す（就職留年を決めた）」は、女子に該当者はいないが、男子は文理それぞれ1割程度見られる（文系男子10.2%、理系男子10.8%）。



	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職先が決まるまで就職活動を続ける	61.0	75.6	40.5	53.3
留年して就職活動をやり直す(就職留年を決めた)	10.2	0.0	10.8	0.0
卒業して就職活動をやり直す(就職浪人を決めた)	3.4	2.2	2.7	13.3
大学院に進学する(修士/博士課程)	8.5	6.7	40.5	13.3
専門学校に入学する	0.0	2.2	0.0	6.7
海外に留学する	3.4	0.0	0.0	0.0
卒業して非正規雇用で働く(派遣、アルバイトなど)	1.7	4.4	2.7	6.7
その他	11.9	8.9	2.7	6.7

### 3. 就職活動継続者の状況と企業探し

就職活動を継続している学生の、現在選考中の企業数は 1.5 社で、これから受験する予定の企業数は 1.8 社。いわゆる「持ち駒企業」をあわせて 3.3 社。月を追うごとに減少しており、12 月ともなるとかなり限られてきているのが実状だ。

今後の就職活動の方針・戦略については、「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」と回答した層が 48.4%に上り、半数弱がまだまだ広げていくというスタンスだ。

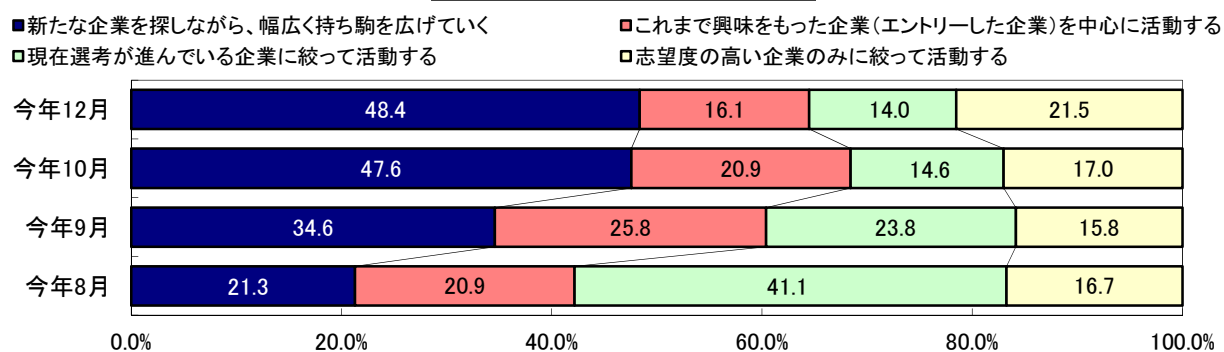
そこで、新たな企業を探す手段を尋ね、10 月調査の結果と比較してみた。「就職情報サイト」が最多である点は変わらないが、80.2%から 74.1%へとポイントを下げた一方で、「新卒紹介サービス」が 23.0%から 37.9%へと大幅に増加しているのが目立つ。就職戦線も後半戦となり、マッチングのしやすさや、効率を重視した探し方へと変化してきているようだ。

持ち駒企業の社数

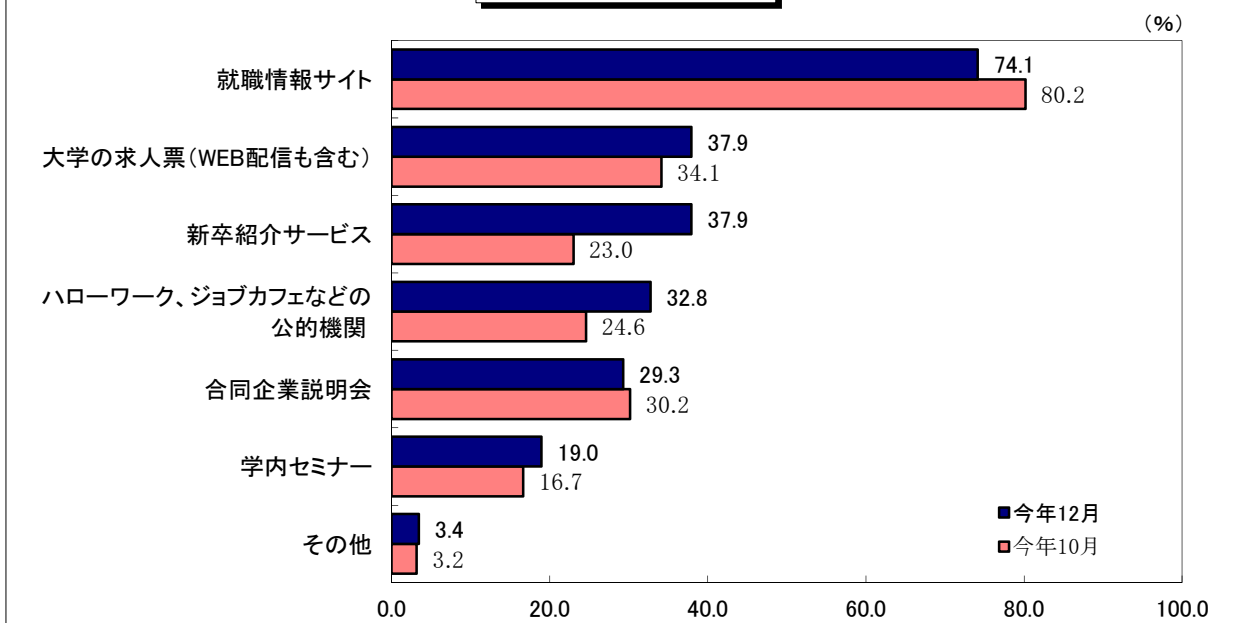
	全体	(今年10月)	(今年9月)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数／平均	1.5	1.7	2.1	1.8	1.3	1.6	1.1
これから受験予定の企業数／平均	1.8	2.4	2.3	1.5	1.6	3.1	1.3

(社)

今後の就職活動の方針・戦略



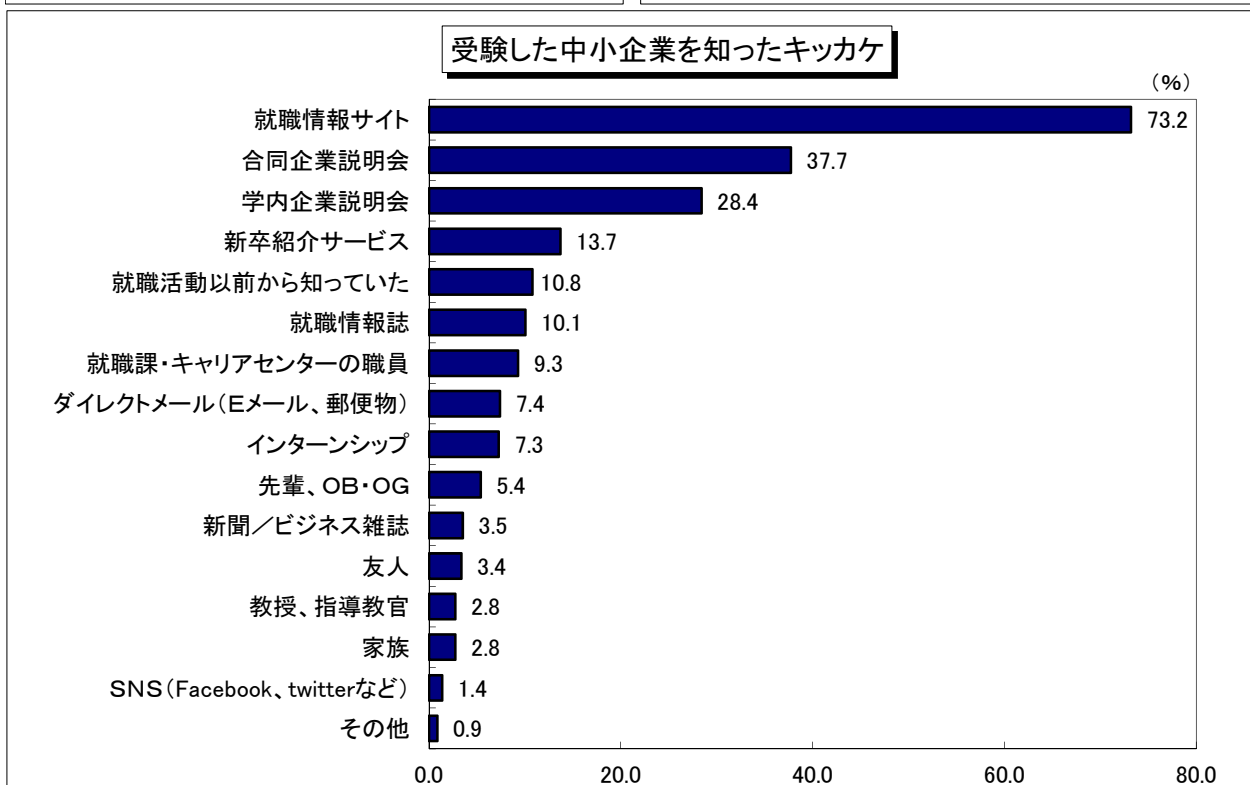
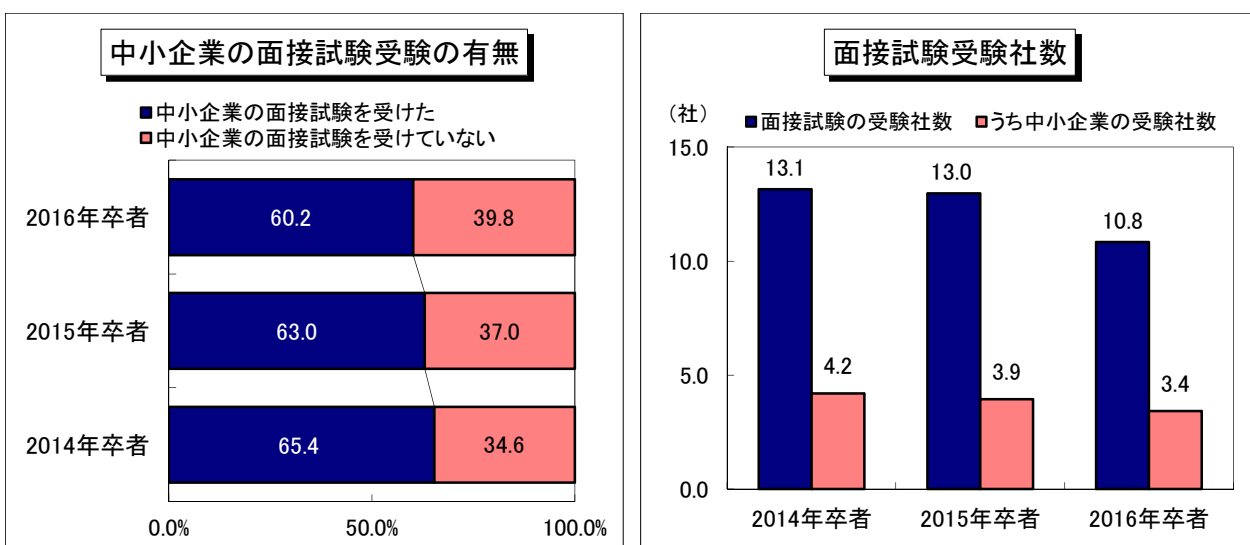
新たな企業を探す手段



#### 4. 中小企業への選考応募状況

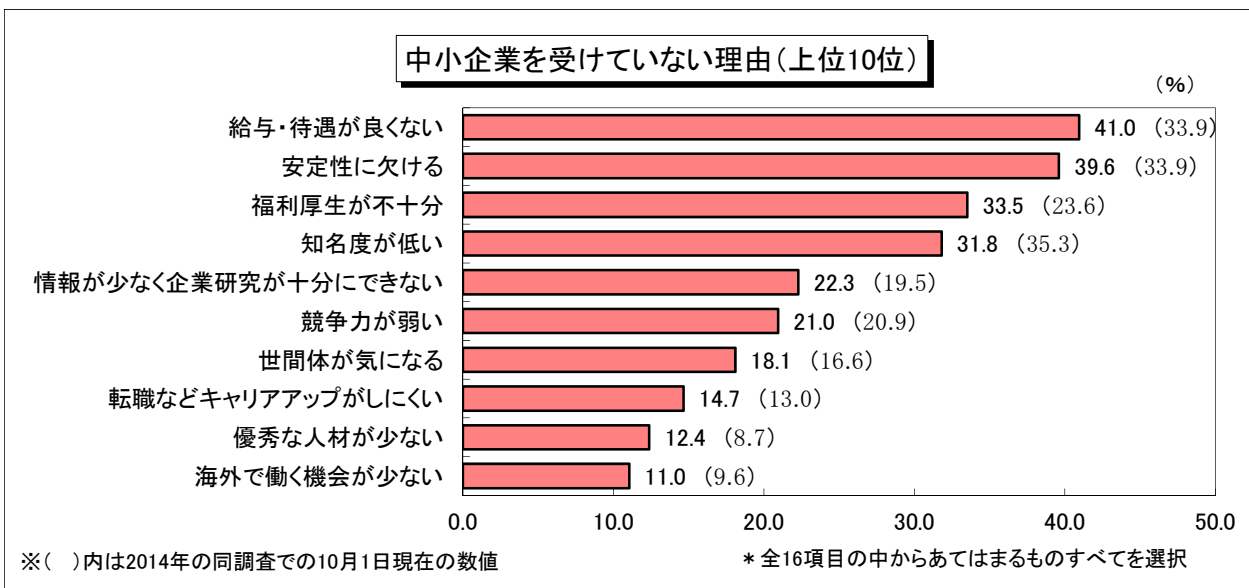
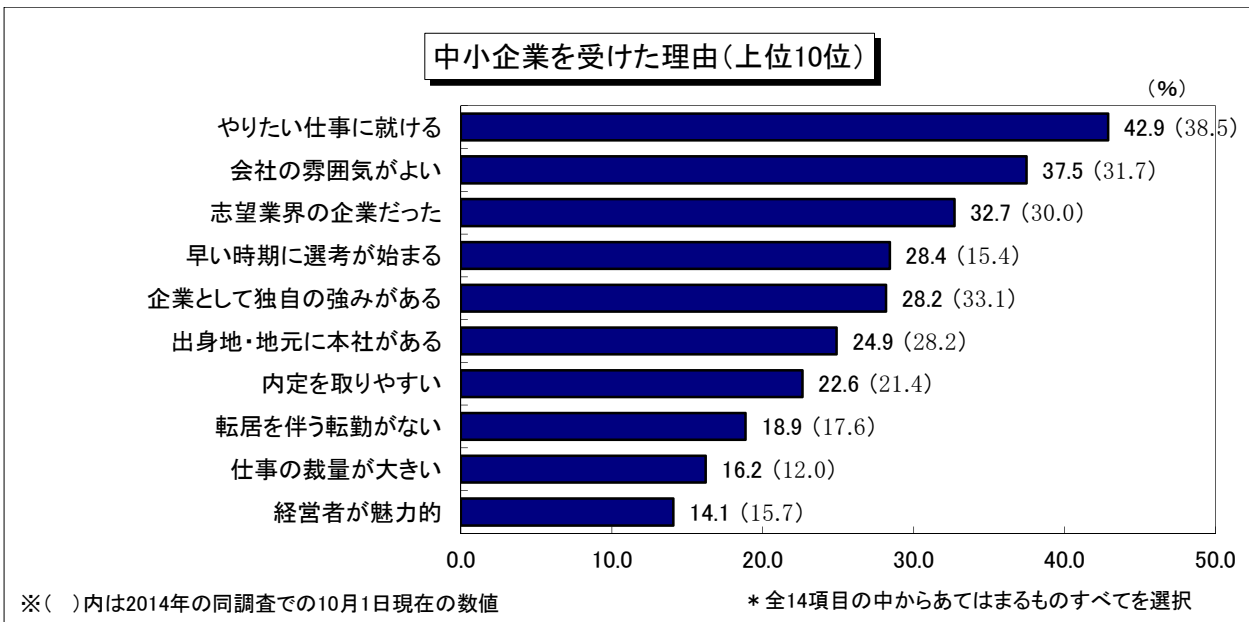
従業員 300 人未満の中小企業の選考について尋ねたところ、「中小企業の面接試験を受けた」は 60.2%で、前年調査 (63.0%) より 2.8 ポイント減少した。面接試験の受験社数は 3.4 社で、全面接受験社数 (10.8 社) に占める中小企業の割合は 31.5%。前年の割合 (30.0%) とあまり変化は見られない。今年は 8 月の大手企業の選考前に、滑り止め感覚で選考の早い中小企業を受ける学生が増えたと言われたが、売り手市場の影響もあってか中小企業の受験割合や社数には表れていなかった。

受験した中小企業をどのように知ったのかを尋ねると、「就職情報サイト」が 73.2%で圧倒的に多い結果となった。以下、「合同企業説明会」37.7%、「学内企業説明会」28.4%、「新卒紹介サービス」13.7%と続く。「就職活動以前から知っていた」との回答は約 1 割 (10.8%) にとどまり、就職活動を始めてから知ったケースが大半だ。



### 5. 中小企業を受けた理由、受けなかった理由

中小企業を受けた理由を見ると、応募の入口に繋がるキーワードは、「仕事」「雰囲気」などだが、前年調査と比較すると「早い時期に選考が始まる」が 15.4%から 28.4%へと約 2 倍に急増しているのが目立つ。一方、受けていない理由は、これまで「知名度が低い」がトップだったのが、「給与・待遇」「安定性」「福利厚生」などへの不安が上位となった。ともに今年らしい特徴が表れている。



#### ■ 中小企業を受けた印象

- 中小企業の内定を滑り止めとしてももらう学生が多い印象だったため、もっと厳しく選考した方がよかったですのではないかと感じた。一人一人会社に合うか、内定を辞退しないか見定める必要がある。 <文系女子>
- 募集が大々的でない分、見つけたときには締切間近だったりすることがあったので、もう少し中小企業のことを見つけやすい仕組みがあればいいと思った。 <文系男子>
- 大企業の選考は機械的で時間が短く、何を求めているのか分からないところが多かったが、中小企業はよく聞いて見て下さっている印象だった。 <文系女子>
- 合同企業説明会で先輩社員のお話をより聞きたいと思いました。 <理系男子>